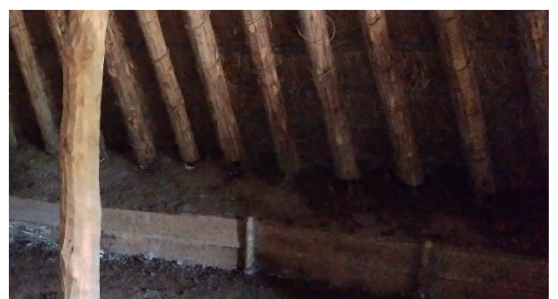
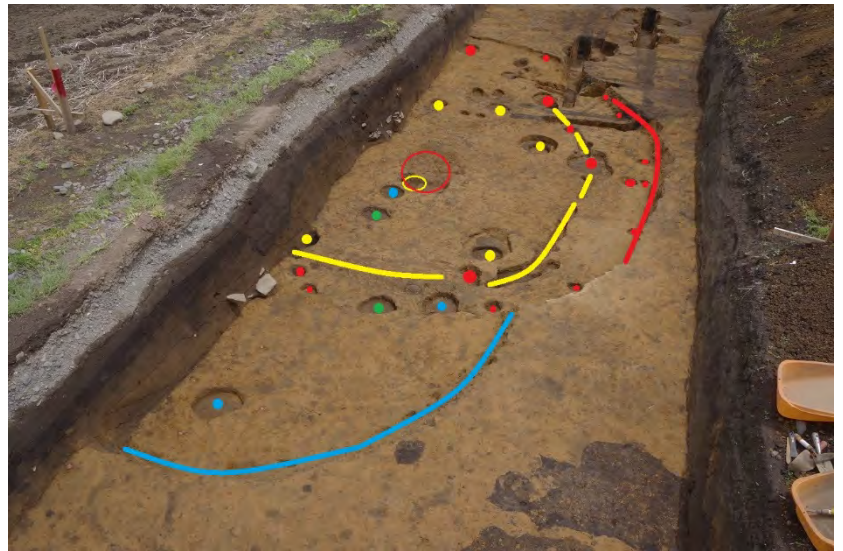


◆ 縄文時代の竪穴建物跡完掘！

前号では、奥の^{たてあな}竪穴が手前の竪穴を壊して造られているところまでお伝えしました。床面には筋状や円形のシミがみつかっていました。これらは、予想どおり穴や溝の跡でした。位置、大きさや深さ、埋まった土の特徴などから、この竪穴は、緑色の柱穴を使ったものから青色へと拡張したけれど、黄色の柱穴と溝を使った竪穴を造るときに壊され、さらに赤色へと拡張したことがわかりました。竪穴の左半分は調査区外のため、青色の柱穴で建つ竪穴の炉は確認できません。黄色の柱穴で建つ竪穴の炉は、拡張後、赤色へと大きくなったようです。壁の下には、板をはめ込んだ溝や板を止める杭を打ち込んだ小さな穴が設けられています。

暑い毎日が続きます
皆さんも熱中症には
十分気をつけましょう



【参考】左：むき出しの壁の上に垂木を刺している 中：壁の土留めに板を並べている 右：壁の土留め板を杭で留めている



復元整備中の平出縄文ムラ

住居の復元に選ばれたのは、氏神遺跡とほぼ同時期の縄文時代中ごろの竪穴建物跡である。上屋はカヤを被せた円錐形で、煙出しはない。

塩尻市史跡平出遺跡公園の周囲には広葉樹が育ち、復元住居の周りには芝生が植えられて、ピクニックも楽しめる空間が広がっている。

(撮影：平林)

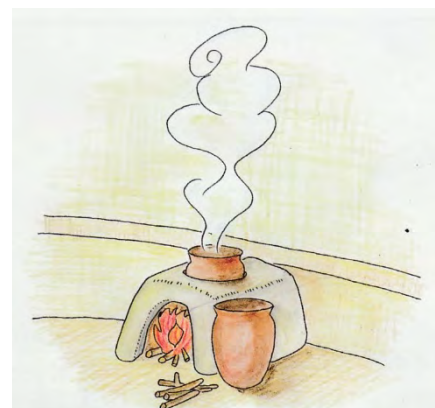


◆掘立柱建物跡と四角い竪穴建物跡

長方形に並んだ黒土で埋まった円い穴がみつかりました。円い穴は、掘立柱建物跡の柱穴です。柱穴の中から内面黒色の土器片が出土しました。

左隣には、一辺4 mほどの四角い竪穴建物跡がみえます。煙出しがついていることから、室内にカマドを設けた建物跡であることが確認できました。灰の釉薬^{うわぐすり}をかけた陶器や、口縁の下に鏝^{こうえん}が付いた釜^{つぼ}（羽釜）などの遺物から、この竪穴建物は平安時代中期、およそ1,000年前のものであることがわかりました。

竪穴の奥に見える出っ張り部分を精査してみると、左下の写真のように、土器片や割れた川原石、崩れた粘土のかたまりが出てきました。川原石を芯材にして粘土をアーチ状に被せ、右下のイラストのように作られたカマドだったと考えられます。



長野県埋文 2005 『三角原遺跡』

うじがみ遺跡ニュース 第4号 (令和2年6月11日発行)
長野県埋蔵文化財センター 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 HP : <http://naganomaibun.or.jp/> Email: info@naganomaibun.or.jp
発掘現場 : 080-9560-1354 (担当 : 村井大海・平林 彰)